

組手競技 大会規約

有効技

- 手による顔、首、金的、背骨以外への攻撃 ■ 足による金的以外への攻撃（※金的への蹴り・上段膝蹴りは禁止）
- 攻撃に繋がる瞬間的な押し、掛け（頭部へは認めない）、崩しは認める

技有り

- 上段への蹴りがクリーンヒットした場合
- 有効技によりダメージが認められた場合

一本

- 技あり2回 ■ 戦意喪失が認められた場合
- ダウン（スタンディングダウン含む）が認められた場合
- 審判＆ドクターが相手選手の試合続行不可能と判断した場合

反則行為

- 蹴り技以外による首、顔への攻撃
- 頭突き、金的、倒れた相手への攻撃、背後からの攻撃
- 上段膝蹴り、膝への関節蹴り
- 主審の「止め」の後の攻撃
- 掴み、投げ、抱え込み、胸を付ける、頭で押す行為
- 攻撃につながらない押すだけの行為
- ※ 注意1→注意2＝減点1→注意3→注意4＝減点2（反則負け）
- ※ 審判が悪質と判断した場合は即刻減点1または減点2となる場合がある
- 相手の有効技によって場外に出る行為
- あきらかに逃げたり試合を遅延させる行為（掛け逃げ等）
- 相手へ反則を誘発する為に負傷を装う、誇張する行為
- 礼節を欠く行為（セコンドや応援者含む）
- 頭部への掛け（片手・両手共に）
- その他審判が反則行為と判断した場合

判定基準

- 順位（①＝②＞③＞④＞⑤）
- ①技ありの有無
 - ②減点の有無
 - ③技ありには至らないダメージ度の高い攻撃
 - ④試合の主導権
 - ⑤気迫や積極性
- サドンデスルール： 延長戦以降はどちらかに技あり・減点1が与えられた時点で勝負が決着する
 - マストシステム： マスト判定となる試合では、必ずどちらか一方に旗が上がる（体重判定は実施しない）
 - ※判定に対する異議申し立ては受け付けない

失格

- 規定体重をオーバーした場合（1kg未満は減点1、1kg以上は失格） ■ 出場時刻に遅れた場合
- 着用義務防具の未着用や不備・不正があった場合 ■ 審判の指示に従わない場合

防具規定

○各自用意 ●主催者用意 △着用任意 ー着用不可 ○●各自持参可・主催者貸出あり

	初心者クラス	初級・中級（小学生）	初級・中級（中学生）
拳サポーター（布製）	○	○	○（※1）
パンチンググローブ	ー	ー	
スネサポーター（布製）	○	○	○
ヒザサポーター（布製）	△	△	○
男子金的ファールカップ 女子のアンダーガード（※2）	男子○／女子△	男子○／女子△	男子○／女子△
ヘッドガード（面有のみ）	○●	○●	○●
インナーチェスト	●（adidas製胴当て）	△	△ 中学生の女子はスポーツブラでも可（※3）
道着内Tシャツ（女子のみ）	白色Tシャツのみ認める		

- 『○各自用意』となっている防具を忘れた場合の貸し出しは原則一切行わない。
- ファールカップ・アンダーガードは必ず道着の中に着用すること。
- インナーチェストは胸部まで保護しているもののみを認め、腹部まで保護しているものは認めない。
※初心者クラスで主催者が用意するadidas製胴当てを除く
- ※1 中学生以上の男女は、拳サポーター、パンチンググローブどちらでも選択可能。
- ※2 女子のアンダーガードは全クラス任意着用。
- ※3 中学生女子は、インナーチェスト、スポーツブラどちらでも選択してよい。

形競技 大会規約

指定形クラス

▼ 試合形式

勝ち抜きトーナメント方式である。
審判員は3名（主審1名、副審2名）の旗判定とし赤・白の演武後に勝敗が判定される。
引き分けはない。

▼ 試合進行

競技開始時、主審の方から見て右手に赤、左手に白が並ぶ。
審判員、お互いに立礼後、主審の「はじめ」の号令とともに決められた形の中から演武する形の名前を宣言し赤白同時に演武を行う。
両者演武終了後、主審の合図により旗で判定が行われる。
競技者は審判員、お互いに立礼後退場する。
※同じ形を繰り返し演武してもよいし指定形の範囲で変更可能

▼ 判定基準

- ・力の強弱・体の伸縮・技の緩急
 - ・着眼及び集中力
 - ・技の正確性
 - ・適切な立ち方
- その他にも形の完成度を総合的に見て判断される。

▼ 減点・反則・失格行為

試合態度が悪い、暴言を吐く、礼をしない、審判員の指示に従わなかった場合など武道教育として相応しくない行為は審判の判断により失格もありうる。

伝統形クラス

▼ 試合形式

勝ち抜きトーナメント方式である。
審判員は3名（主審1名、副審2名）の旗判定とし赤・白の演武後に勝敗が判定される。
引き分けはない。

▼ 試合進行

競技開始時、主審の方から見て右手に赤、左手に白が並ぶ。
審判員、お互いに立礼後、主審の「はじめ」の号令とともに演武する形の名前を宣言し赤白同時に演武を行う（創作形不可）
両者演武終了後、主審の合図により旗で判定が行われる。
競技者は審判員、お互いに立礼後退場する。
※各試合、同じ形を繰り返し演武しても良い。また、試合ごとに変更しても良い。
※決勝戦のみ赤の選手から一人ずつ演武を行う

▼ 判定基準

- ・力の強弱・体の伸縮・技の緩急
 - ・着眼及び集中力
 - ・気合・気迫
 - ・呼吸・技の正確性
 - ・適切な立ち方
- その他にも形の完成度を総合的に見て判断される。

▼ 減点・反則・失格行為

試合態度が悪い、暴言を吐く、礼をしない、審判員の指示に従わなかった場合など武道教育として相応しくない行為は審判の判断により失格もありうる。